

青森県立高等学校魅力づくり検討会議における
これまでの検討状況（中間まとめ）に関する
地区懇談会

青森県教育委員会

本日の説明内容

01 » はじめに

02 » 県立高校の現状

03 » 中間まとめ（概要）

04 » 検討会議の今後の流れ

01

はじめに

- ◆ 青森県立高等学校魅力づくり検討会議とは
- ◆ 地区懇談会の目的

◆ 青森県立高等学校魅力づくり検討会議とは

はじめに

会議設置の経緯

- 現在は、青森県立高等学校将来構想検討会議の答申（平成28年1月）を踏まえて策定した青森県立高等学校教育改革推進計画により、「学校・学科の充実」「計画的な学校配置」「魅力ある高等学校づくり」等の取組を推進
- 人口減少や社会のグローバル化、経済や生活環境の変化、価値観の変化・多様化が進み、本県の教育を取り巻く環境が更に変化
- 本県のこどもたちが、変化し続ける社会に対応するために必要となる力を身に付け、未来を切り拓き、豊かな人生を送るとともに持続可能な社会の創り手となることができるよう、学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための「魅力ある高等学校づくり」の更なる推進が必要

- ◆ 県教育委員会では、令和5年5月に、県内の様々な分野の方々に構成される青森県立高等学校魅力づくり検討会議を設置し、令和10年度以降の魅力ある県立高等学校の在り方を検討

◆ 青森県立高等学校魅力づくり検討会議とは

はじめに

主な検討事項

Point 01

これからの時代に求められる力を育む
学校・学科の充実について



Point 02

生徒一人一人に充実した教育環境を
提供するための学校配置について



◆ 青森県立高等学校魅力づくり検討会議とは

はじめに

青森県立高等学校魅力づくり検討会議

■ 検討事項

- これからの時代に求められる力を育む**学校・学科の充実**について
- 生徒一人一人に充実した教育環境を提供するための**学校配置**について

■ 委員構成：23名

- 大学関係者、産業関係者、PTA関係者、報道関係者、市町村教育委員会関係者、中学校関係者、高校関係者等

検討依頼
(令和5年5月)



教育長

検討結果報告
(令和7年2月予定)

第1分科会

- 学校・学科の充実
- 委員構成：10名

< 第1分科会専門委員 >

- 委員構成：9名
- 行政関係者、高校関係者等

第2分科会

- 学校配置
- 委員構成：11名

< 第2分科会専門委員 >

- 委員構成：5名
- 行政関係者、高校関係者等

意見照会 ↓ ↑ 結果報告

地区部会

< 東青・西北・中南・上北・下北・三八 > (各地区9～10名)

- 内容：検討会議又は分科会からの求めに応じて、地区の意見を取りまとめる
- 委員構成：市町村教育委員会関係者、地域関係者、PTA関係者、中学校関係者、高校関係者等

地区懇談会の目的

Point 01

県民の皆様へ検討状況（中間まとめ）
についてお知らせすること

Point 02

県民の皆様から中間まとめに関する
御意見を伺うこと



検討会議において、検討結果報告に向けて更なる検討

02

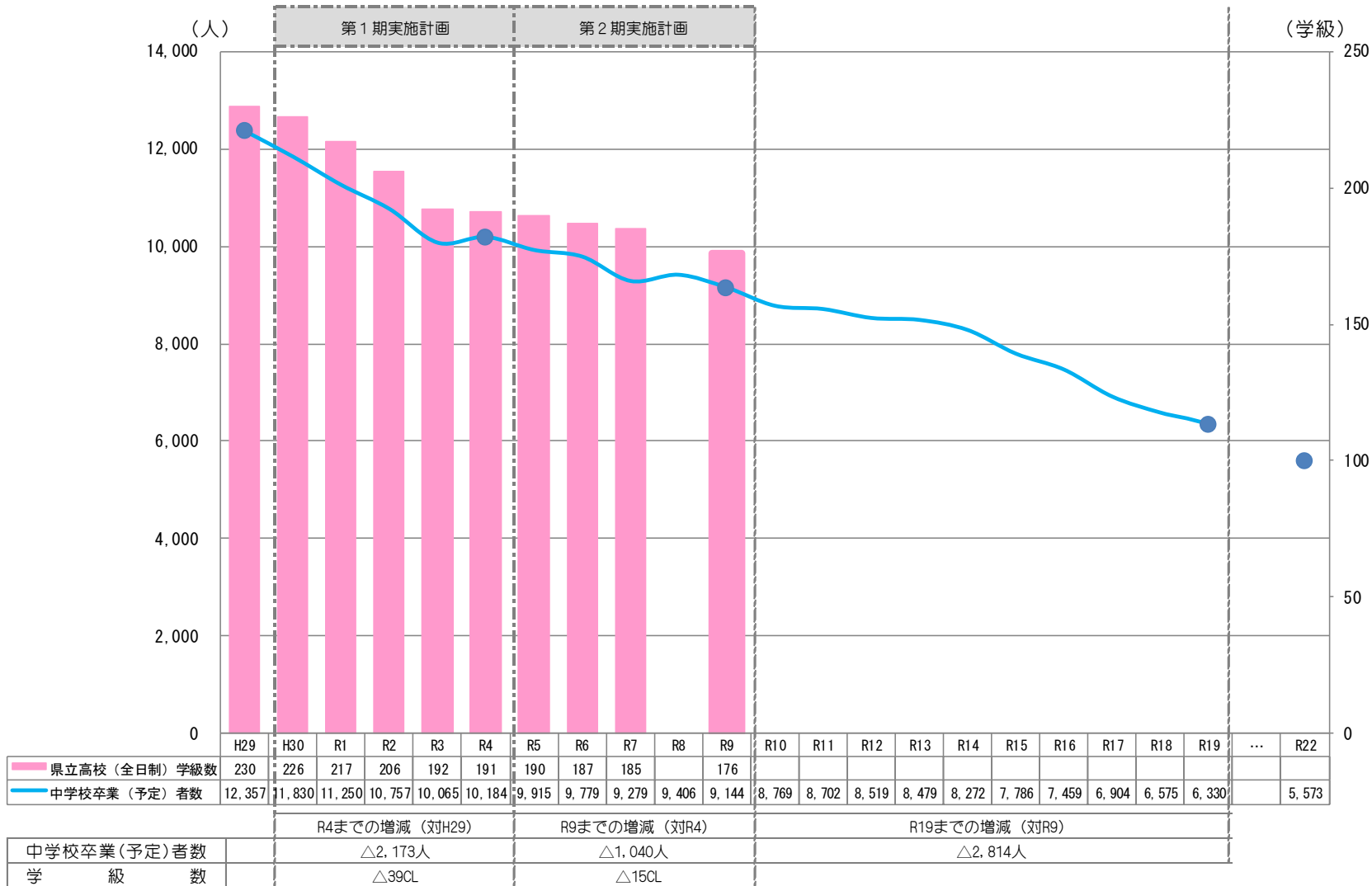
県立高校の現状

- ◆ 中学校卒業（予定）者数と学級数の推移
- ◆ 学科の設置目的等
- ◆ 学校配置の状況



中学校卒業（予定）者数と学級数の推移

【県全体の中学校卒業（予定）者数と学級数の推移】

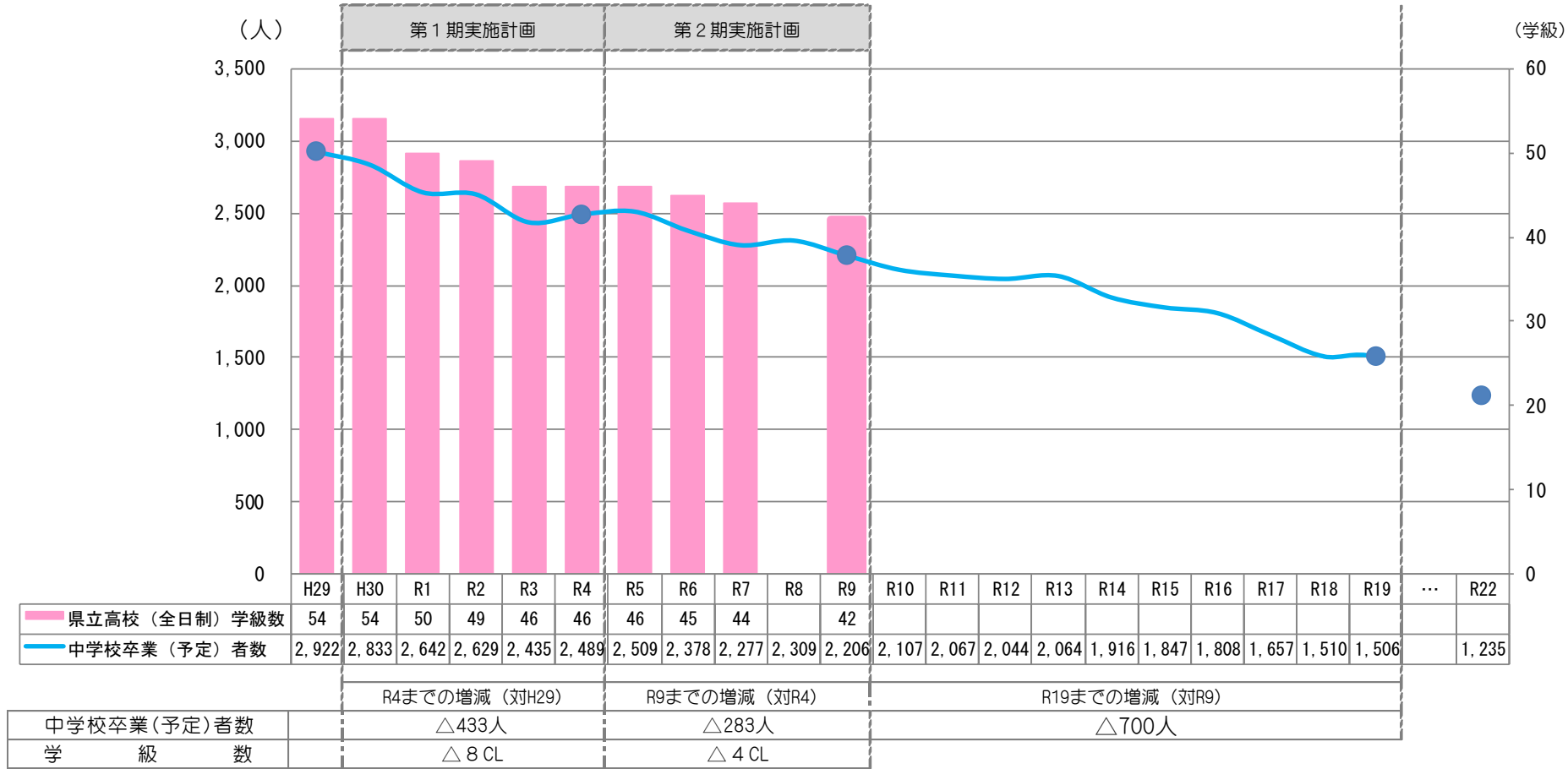


- ・ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値
- ・ 令和22年3月の中学校卒業予定者数は、国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に推計・公表した「日本の地域別将来推計人口（令和5年度推計）」を基に算出・推計



中学校卒業（予定）者数と学級数の推移

【東青地区の中学校卒業（予定）者数と学級数の推移】

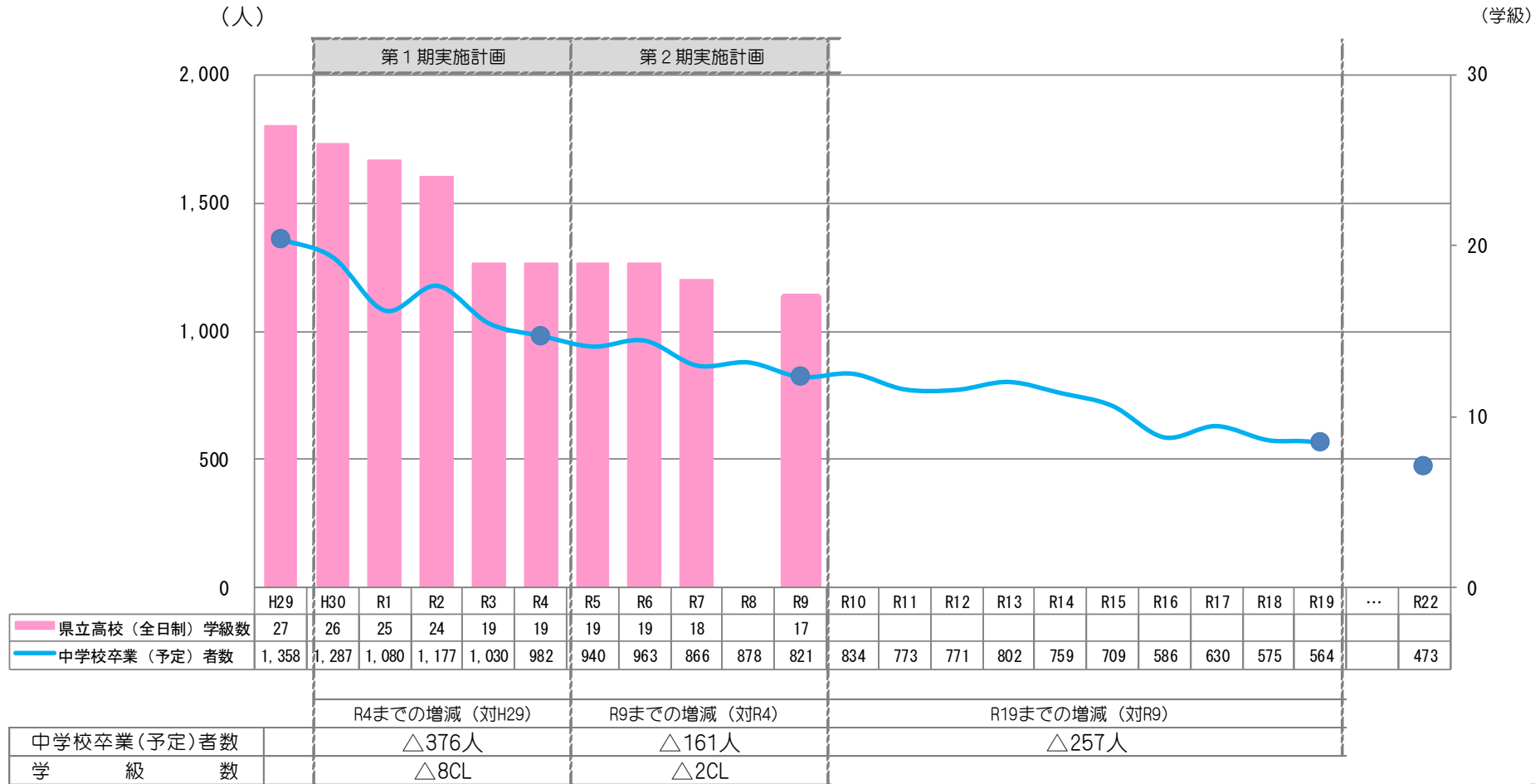


- ・ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値
- ・ 令和22年3月の中学校卒業予定者数は、国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に推計・公表した「日本の地域別将来推計人口（令和5年度推計）」を基に算出・推計



中学校卒業（予定）者数と学級数の推移

【西北地区の中学校卒業（予定）者数と学級数の推移】

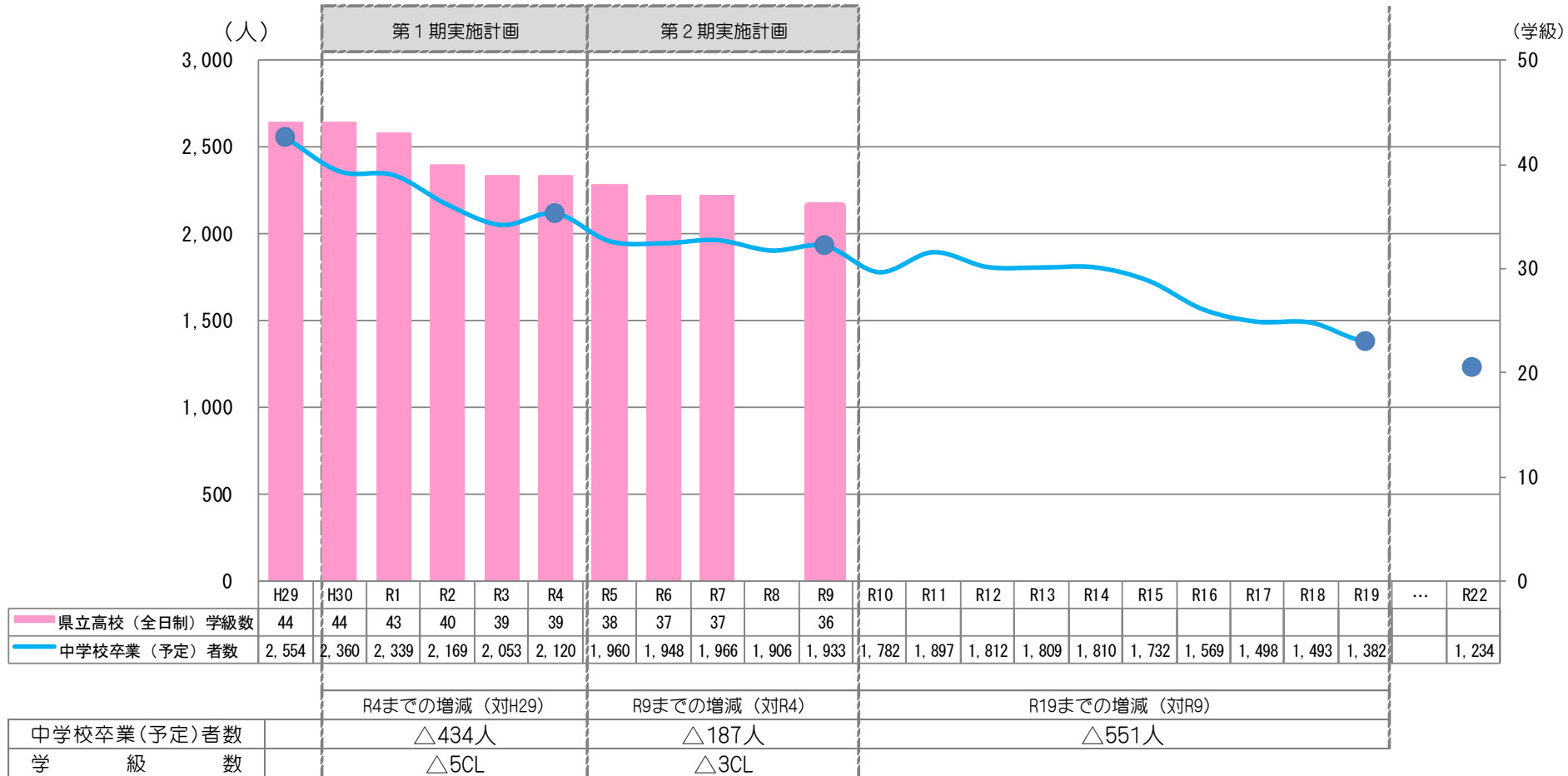


- ・ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値
- ・ 令和22年3月の中学校卒業予定者数は、国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に推計・公表した「日本の地域別将来推計人口（令和5年度推計）」を基に算出・推計



中学校卒業（予定）者数と学級数の推移

【中南地区の中学校卒業（予定）者数と学級数の推移】

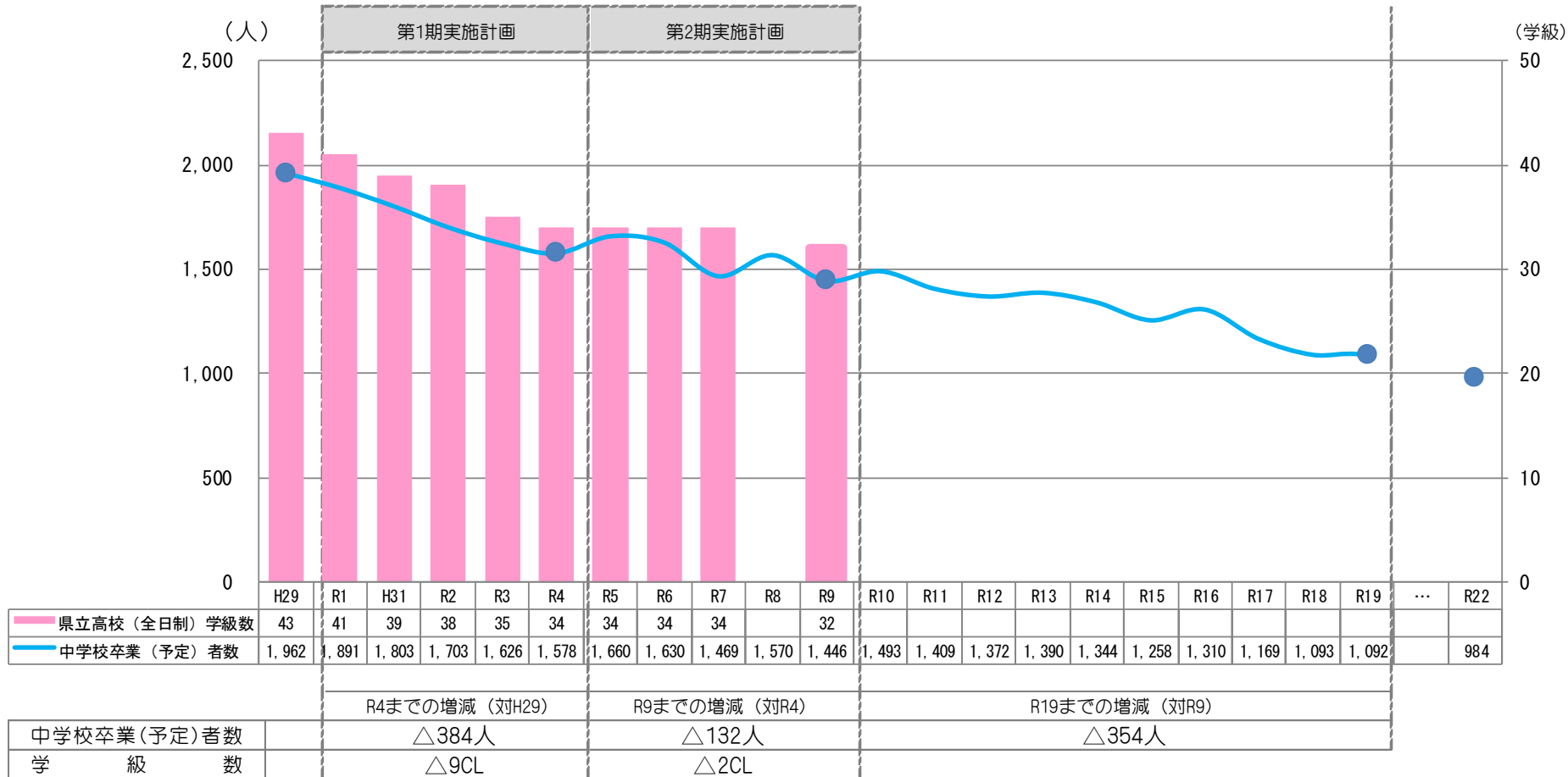


- ・ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値
- ・ 令和22年3月の中学校卒業予定者数は、国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に推計・公表した「日本の地域別将来推計人口（令和5年度推計）」を基に算出・推計



中学校卒業（予定）者数と学級数の推移

【上北地区の中学校卒業（予定）者数と学級数の推移】

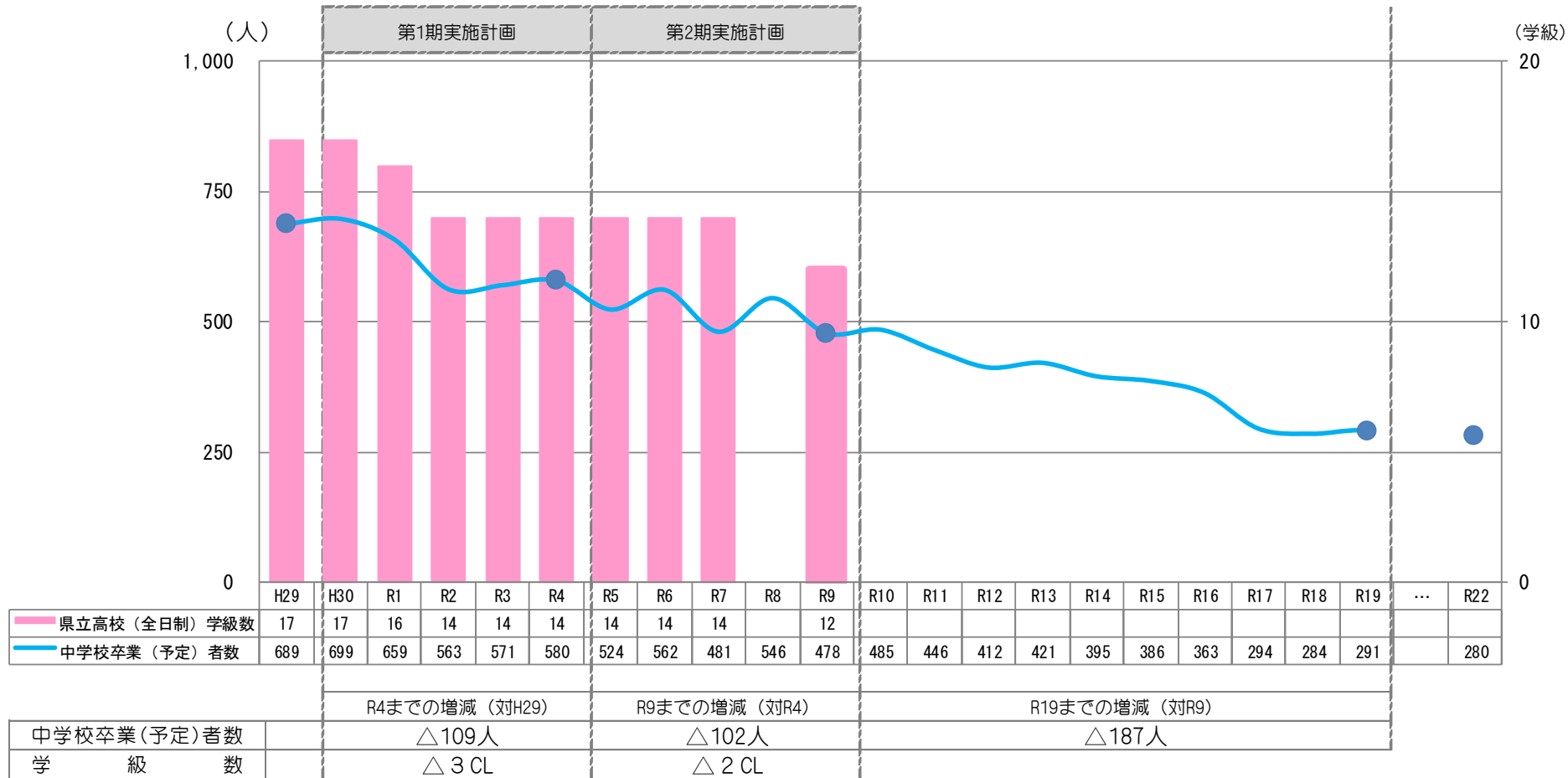


- ・ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値
- ・ 令和22年3月の中学校卒業予定者数は、国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に推計・公表した「日本の地域別将来推計人口（令和5年度推計）」を基に算出・推計



中学校卒業（予定）者数と学級数の推移

【下北地区の中学校卒業（予定）者数と学級数の推移】

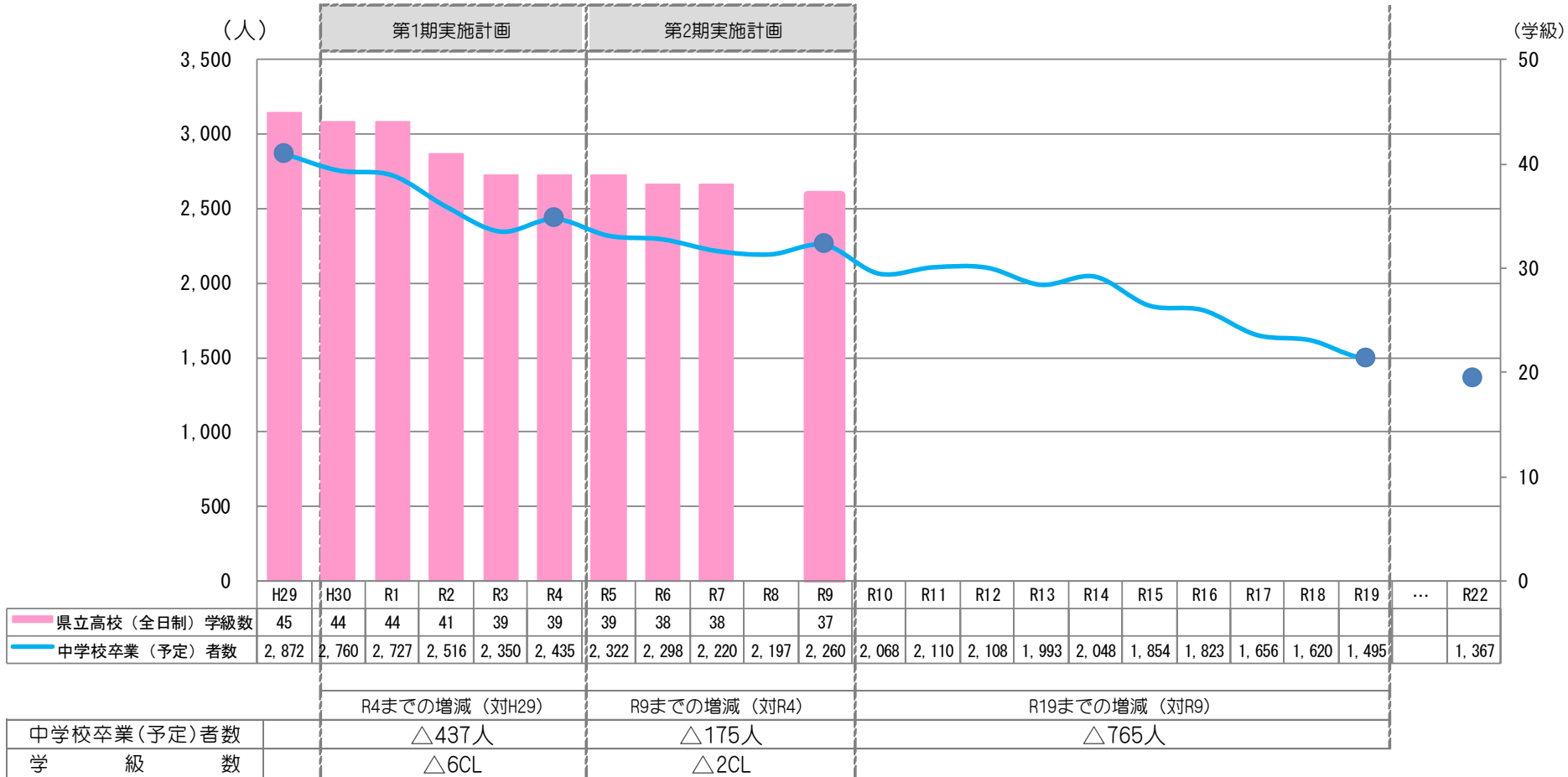


- ・ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値
- ・ 令和22年3月の中学校卒業予定者数は、国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に推計・公表した「日本の地域別将来推計人口（令和5年度推計）」を基に算出・推計



中学校卒業（予定）者数と学級数の推移

【三八地区の中学校卒業（予定）者数と学級数の推移】



- ・ 中学校卒業予定者数は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値
- ・ 令和22年3月の中学校卒業予定者数は、国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に推計・公表した「日本の地域別将来推計人口（令和5年度推計）」を基に算出・推計

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆ 普通科系の専門学科

学科名	設置目的	設置校
スポーツ科学科	体育・スポーツに関する教科・科目の学習に重点を置き、体育・スポーツの振興に寄与できる人財を育成	青森北高校 (H12～) 弘前実業高校 (H13～) 八戸西高校 (H13～)
表現科	表現に関する専門的な学習を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養いながら、豊かな情操と創造性を育成	八戸東高校 (H15～)
グローバル探究科	探究活動や協働的学びに重点を置き、社会の更なるグローバル化等に対応できる国際的素養を身に付けたグローバル人財を育成	青森南高校 (R6～)

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆ 農業科

学科名	設置目的	設置校
食品科学科	食品の製造・分析及び流通・情報に関する科学的知識と技術を習得させ、食品にかかわる業務に必要な能力と態度を育成	柏木農業高校 (H11～) 五所川原農林高校 (H22～) 三本木農業恵拓高校 (R3～)
動物科学科	従来の畜産教育の領域を拡大し、牛・豚・鶏等の産業動物の他に、馬や愛玩動物等の社会動物の領域を新たに加え、専門的な学習を推進	三本木農業高校 (H12～R4) 三本木農業恵拓高校 (R3～)
生物生産科	農業生産に関する知識・技術とともに、環境保全型農業や植物バイオテクノロジー等について学習	五所川原農林高校 (H18～) 名久井農業高校 (H18～) 柏木農業高校 (H20～)

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆ 農業科

学科名	設置目的	設置校
園芸科学科	果樹・草花等の生産、園芸福祉について学習	名久井農業高校 (H18～R3)
植物科学科	作物生産や植物バイオテクノロジー、施設園芸等について学習	三本木農業高校 (H18～R4) 三本木農業恵拓高校 (R3～)
環境工学科	農業機械や造園、環境保全型農業などに関して学習	柏木農業高校 (H20～) 三本木農業恵拓高校 (R3～)

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆ 農業科

学科名	設置目的	設置校
森林科学科	森林の育成とともに、森林環境保全や林産資源活用についても学習	五所川原農林高校（H22～）
環境土木科	農業土木とともに、地域環境の保全等についても学習	五所川原農林高校（H22～） 三本木農業高校（H22～R4）
環境システム科	農業科の中で、工業の科目や経営に必要な科目を学習	名久井農業高校（H25～）
環境科学科	森林の構造・機能・育成、農業土木、環境保全などに関して学習	五所川原農林高校（R7～）

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆工業科

学科名	設置目的	設置校
都市環境科	土木に関する教育内容に加え、環境保全技術など環境やエネルギーについても学習	青森工業高校 (H23～)
機械・エネルギー科	機械に関する教育内容に加え、電気自動車や燃料電池、太陽光など環境やエネルギーについても学習	十和田工業高校 (H23～)
設備・エネルギー科	設備に関する教育内容に加え、地熱や太陽光などを利用した設備のしくみなど、環境やエネルギーについても学習	むつ工業高校 (H23～)

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆工業科

学科名	設置目的	設置校
土木建築科	土木に関する教育内容を学習する土木コースと建築に関する教育内容を学習する建築コースを設置	八戸工業高校 (H25～R4：R3～土木科と建築科へ学科改編)
電気・エネルギー科	発電や送電、電気配線工事に加え、エネルギー等についても学習	下北地区統合校 (R9～)

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆ 総合学科

設置目的	設置校
普通教育を主とする学科である「普通科」、専門教育を主とする学科である「専門学科」に並ぶ学科として制度化 生徒の主体的な選択による学習を通して、将来の生き方や進路に関する自覚を深め、職業観を育成	七戸高校 (H8～) 尾上総合高校 (H11～H24：H25定時制に転換) 大湊高校 (H14～) 青森中央高校 (H15～) 木造高校 (H15～) 木造高校深浦校舎 (H17～R4)

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆ 全日制普通科単位制

導入目的	導入校
全日制普通科において学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば、卒業が認められる制度 生徒の選択による主体的な学習を通して、大学進学等の進路希望の達成を図る。	青森東高校 (H16～) 八戸北高校 (H18～) 弘前南高校 (H20～) 田名部高校 (R1～)

◆ 総合選択制

導入目的	導入校
在籍する学科内の科目選択にとどまらず、生徒の興味・関心や進路選択に応じて、他の学科の科目を選択	弘前実業高校 (H14～)

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆ 中高一貫教育

区分	導入目的	導入校
連携型	設置者の異なる中学校と高等学校が連携し、6年間にわたり計画的・継続的な教育活動を実施	田子高校 (H13～R3) 大湊高校 (H14～H25)
併設型	同一の設置者による中学校と高等学校を接続し、6年間の計画的かつ継続的な一貫した教育指導を実施	三本木高校 (H19～)

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆ 定時制三部制

導入目的	導入校
午前、午後、夜間等の時間帯で授業を行い、仕事の時間や学習スタイルに合わせて、他の部の授業を受けることなどにより、3年での卒業も可能	北斗高校 (H18～) 八戸中央高校 (H18～) 尾上総合高校 (H25～)

◆ 通信制の再編

再編目的	実施校
望ましい指導体制に向け、八戸中央高校及び尾上総合高校に設置していた北斗高校通信制課程の分室をそれぞれ当該校の通信制課程に再編	北斗高校 (H11～) 八戸中央高校 (H25～) 尾上総合高校 (H25～)

◆ 学科の設置目的等

【平成12年度以降に新設された学科等の設置目的及び設置校等】

◆ くくり募集

実施目的	実施校
<p>柔軟な学科選択に対応するため、学校の実情に応じて、複数の学科を一括して募集</p> <p>1年次は共通科目を学習し、2年次以降、各学科に分かれて学習</p>	<p>< 商業科と情報処理科 > 青森商業高校 (H22~) 黒石商業高校 (H22~R3) 三沢商業高校 (H22~)</p> <p>< 普通科と理数科 > 五所川原高校 (H26~)</p>



学校配置の状況

【県立高校の配置状況（令和6年4月1日現在）】

- 普通科等の高校
- 職業教育を主とする専門学科の高校
- 普通科等と職業教育を主とする専門学科の併置校
- 総合学科の高校





学校配置の状況

【令和6年度県立高校（全日制）募集学級別一覧】

募集学級数	東青	西北	中南	上北	下北	三八	学校数
6学級	青森 青森西 青森東 青森工業 (35)		弘前 弘前中央 弘前工業 (35) 弘前実業	三本木 三沢 三本木農業恵拓 (35)		八戸 八戸東 (表現科30) 八戸西 八戸工業 (35)	15校
5学級	青森北 青森南 青森商業	五所川原 五所川原工科 (35)	弘前南 黒石		田名部	八戸北	9校
4学級	青森中央	木造 五所川原農林 (35)		十和田工業 (35)	大湊		5校
3学級			柏木農業 (35)	七戸 百石 三沢商業	むつ工業 (35)	八戸水産 (35) 八戸商業	7校
2学級	浪岡 (35)			野辺地	大間 (35)	名久井農業 (35)	4校
1学級		鱒ヶ沢		六ヶ所		三戸	3校
学校数	9校	5校	7校	9校	4校	9校	43校
学級数	45学級	19学級	37学級	34学級	14学級	38学級	187学級

※ (35) …… 1学級35人編制としている学校

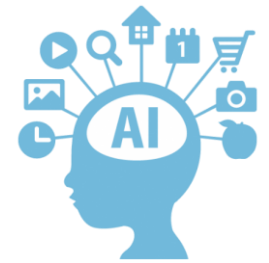
03

中間まとめ（概要）

- 第1 魅力ある高等学校づくりに向けた基本的な考え方
- 第2 学校・学科の充実の方向性
- 第3 学校配置の方向性
- 第4 地域等の理解と協力の下での魅力ある高等学校づくり

1 高等学校教育を取り巻く現状

- 人口減少やグローバル化の進展、Society5.0時代の到来等、社会の急速な変化
- 生徒の能力、適性、興味・関心、進路志望等の一層の多様化。不登校経験等、様々な事情を抱えた生徒が在籍し、高校の実態も多様化
- 「多様性への対応」と「共通性の確保」が必要



2 「魅力ある高等学校づくり」の視点

- これまでの成果・課題、将来必要となる力、本県の実情等を踏まえつつ、新たな視点を取り入れた本県ならではの高校教育改革
- 生徒の夢や志の実現を県全体が一体となって支援できる環境づくり
- こうした環境づくりに当たっては、教職員がゆとりを持って、生き生きと日々の教育活動に取り組むことができるよう配慮が必要

3 高等学校教育の方向性

(1) これからの時代に求められる力の育成

- 知・徳・体の調和のとれた生きる力や主体性、コミュニケーション能力、自己肯定感、多様性を尊重する心、地域・郷土を愛する心
- 課題発見・解決する力や地域を支える心、大志を抱き世界へ挑戦する心、主体的に未来を切り拓く力等の夢や志に応じた力
- 柔軟性や創造性等、急激に変化する社会において求められる力

(2) これからの時代に求められる人財の育成

- ◆ 青森県や地域の発展に貢献できる人財
- ◆ イノベーションを創出する志や創造性を持った社会を牽引できる人財
- ◆ 職業の多様化に対応できる人財 等

3 高等学校教育の方向性

（3）高等学校に求められること

- 全ての生徒が安心して学べる環境づくり
- 生まれ育った環境にかかわらず、生徒に一定の水準を満たした教育や、誰一人取り残さないきめ細かな教育を提供することによる生徒のウェルビーイングの実現
- 各校の特色を生かすとともに、多様な主体等との連携・協働による教育活動全体の更なる魅力化
- カリキュラム・マネジメントの適切な実施
- 探究的な学びや学科横断的な学び、S T E A M教育等の充実
- 学校・学科の魅力づくりに向け、各校の特色や役割に応じた教育制度等の効果的な活用

1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり

（1）教育活動の更なる充実

① 各校の特色を生かした取組の推進

- スクール・ミッション等に基づく教育活動の更なる充実と情報発信
- 特色ある取組の発展や、これまでの常識にとらわれない新たな取組の創出等、本県ならではの取組の推進
- 県内中学生の入試環境への影響等も考慮しながら、全国からの生徒募集の新たな導入校の検討

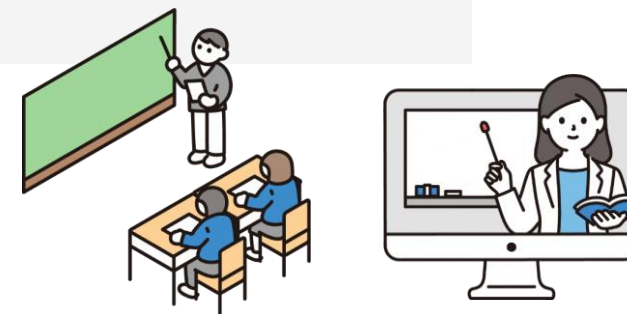


1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり

（1）教育活動の更なる充実

② ICTの活用による教育活動の充実

- 他校等との連携・協働体制を構築・強化した上で、対面指導と遠隔・オンライン教育の最適な組合せ
- ICTの活用に係る教員の資質向上や専門スタッフの配置の充実
- 遠隔授業を実施する場合は、教科・科目の特性を考慮した上で、多様な教科・科目を受講できる体制を整備



1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり

（1）教育活動の更なる充実

③ 特別な支援を必要とする生徒への教育の充実

- 教員の資質向上や指導体制の更なる充実、専門スタッフの配置の充実、特別支援学校の分教室の設置等の環境整備
- 「他校通級」や「巡回通級」の実施等、通級による指導の充実
- 不登校や別室登校の生徒が学びを継続できるよう、ICTの活用等による個に応じた指導の充実



1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり

（2）多様な主体との連携・協働

① 高等学校間・学科間の連携

- 各校や各学科の実情に応じた効果的な方法での連携の推進
- 各校や各学科が共通して取り組むテーマ等に応じて、それぞれの特色ある教育活動の成果を共有し、各校の特色ある学びの更なる深化を図るなど、これまでの枠組みにとらわれない連携の推進

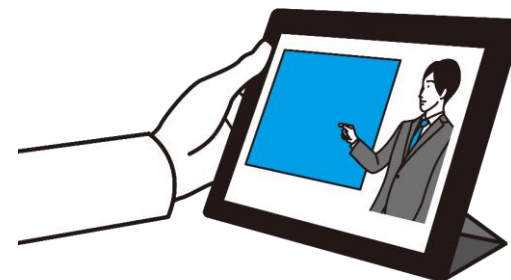
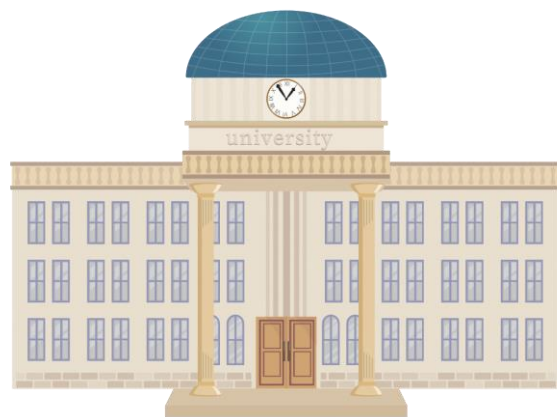


1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり

（2）多様な主体との連携・協働

② 異なる校種間の連携

- 連携の主体や目的を明確にした上で、小・中学校との連携の充実
- 大学等からの遠隔教育の実施や、高校以外での学修の単位認定等、実用的で実質的な連携の充実

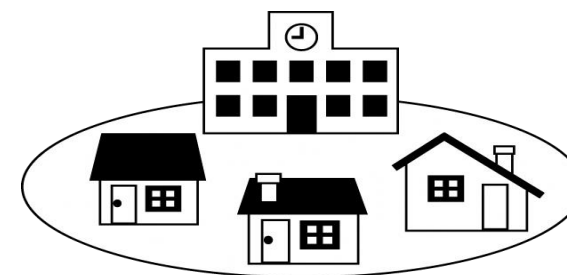


1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり

（2）多様な主体との連携・協働

③ 地域や関係機関等との連携

- 地域や関係機関等との連携・協働体制を構築・強化するとともに、各校や地域の実情を踏まえながら、地域等について理解を深める学習や地域課題の発見・解決に取り組む活動を実施
- 地域や関係機関等との連携を担うコーディネーターの配置と、養成・研修等を通じたコーディネート機能の充実



2 これからの時代に求められる力を育む学科等の魅力づくり

（1）全日制課程

① 普通科等（普通科、理数科、グローバル探究科、スポーツ科学科、表現科）

- 教育資源や強みを生かした特色化・魅力化
- 地域や大学等との連携による教育活動の充実

② 職業教育を主とする専門学科（農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科）

- 基礎的・基本的な学びを土台としつつ、各産業を取り巻く環境の変化に対応した学びの推進
- 地域や関係機関との連携による教育活動の充実

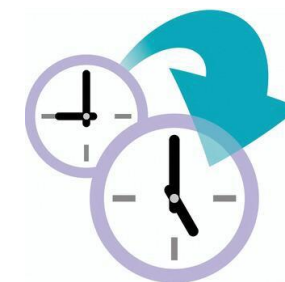
③ 総合学科

- 外部人材や地域資源の積極的な活用による多様な分野の学びの提供
- 本県の専門学科では学べない特色ある科目や系列を超えた選択科目の設定等、社会の変化や生徒のニーズに対応した教育課程の編成

2 これからの時代に求められる力を育む学科等の魅力づくり

（2）定時制課程・通信制課程

- 多様な選択科目を開設した教育課程を編成するなど、多様な学びの提供
- 関係機関等との連携や専門スタッフによる支援体制の強化等、生徒一人一人へのきめ細かな指導の充実
- 定時制課程においては、募集人員を含めた午前部、午後部、夜間部それぞれの在り方を検討
- 通信制課程においては、スクーリングの負担を考慮した環境の整備、後期入学や転入学・編入学に対応した教育課程の編成
- 従来の全日制課程、定時制課程及び通信制課程の枠組みにとらわれないフレキシブルな学びの提供等、課程の在り方を検討



3 学校・学科の魅力づくりに向けた教育制度

（1）中高一貫教育

- 既導入校における教育活動の充実、児童・保護者等の理解促進
- 新たな設置については、周辺の市町村立中学校への影響や設置意義等を総合的に勘案して判断

（2）全日制普通科単位制

- 既導入校における教育活動の充実
- 生徒の興味・関心や進路志望に応じた科目選択が可能となるため、各校・各学科の役割や特長に応じて普通科以外も含めた新たな導入の検討

3 学校・学科の魅力づくりに向けた教育制度

（3）総合選択制

- 既導入校における教育活動の充実
- 新たな導入については、これまでの成果や課題を検証し、学科の専門性を生かした教育活動の更なる充実に向けた在り方を検討した上で判断

（4）コミュニティ・スクール

- 各校の実情に応じた委員やコーディネーター等を確保
- 新たな導入については、既導入校における取組状況等を踏まえ、各校の目的に応じた効果的な活用等を考慮しながら検討

（5）入学者選抜制度

- 選抜方法や実施時期、募集方法等、制度の在り方を検討

1 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点

（1）高等学校教育を受ける機会の確保

- 全ての生徒が夢や志の実現に向けて高校を選択できる環境づくり
- 地域と一体となった人財育成が進められてきたことを踏まえた学校配置
- 地理的要因等により高校への進学に支障が生じないような通学環境への配慮

（2）充実した教育環境の整備

- 高校に求められる教育活動を提供できる教育環境の整備
- 様々な事情を抱えた生徒の多様な教育的ニーズへの対応
- 高校間連携や地域等との連携の更なる推進



2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置

（1）全日制課程

① 学校配置の考え方

- 6地区ごとに、中学校卒業予定者数の推移や産業動向、中学生のニーズ、地域の実情等を考慮し、生徒の進路志望等に応じた様々な役割を担う高校を配置
- 各校がそれぞれの役割に応じてより特色ある教育活動を実践できる教育環境を提供



2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置

（1）全日制課程

② 学校規模

- 各地区に一定規模を有する高校を配置しながら、きめ細かな指導が受けられ、生徒の通学環境に配慮した小規模校も配置するなど、学校規模も特色の一つと捉え、多様な高校を配置



2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置

(1) 全日制課程

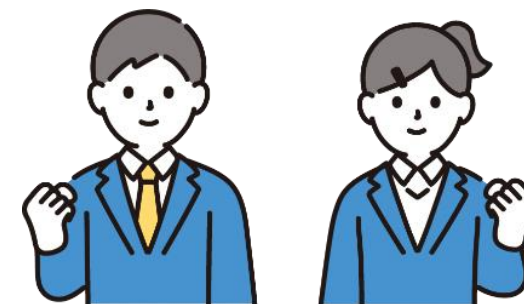
③ 小規模校の配置

- 「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点を考慮し、小規模校の配置に配慮
- 配置に当たっては、小規模校の特長を生かした教育活動の推進、近隣の高校等との連携による合同授業や合同行事の実施、配信センターからの遠隔授業の実施等により、充実した教育環境を提供
- 地域校制度について、配置基準や募集停止等の基準を含めた在り方を検討した上で、学校と地域が一体となった教育活動を推進
- 募集停止をする場合の対応として、通学が困難となる生徒に対する通学手段の確保・通学支援等を検討

2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置

（2）定時制課程・通信制課程

- 生徒が自らの特性やペースに応じて主体的に学習内容や学び方を選択できるように、現状の配置を継続
- 全日制課程と合わせた学校配置を含め、拡充も検討



3 学校配置と合わせて検討すべき事項

（1）再編の方法等

- 地域の学校配置の状況を考慮しながら、新たな学びの創出等を目指した学科の統合や、異なる学科の高校の統合を検討
- キャンパス制の導入、中学校等との併設等、統合以外の方策も検討

3 学校配置と合わせて検討すべき事項

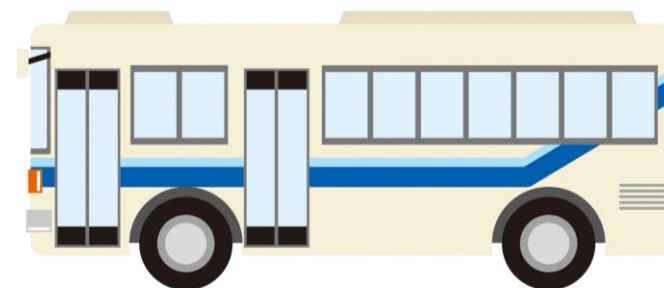
（2）学級編制

- 多様な生徒への対応の充実や、きめ細かな指導のため、各校の特色を踏まえた少人数学級編制の拡充等を検討
- 単位制の導入により少人数指導も可能となることも踏まえ、各校・各学科の特長に応じて、少人数学級編制や単位制の導入を検討

3 学校配置と合わせて検討すべき事項

（3）通学手段の確保・通学支援

- 県と市町村や交通事業者等とが連携し、公共交通機関の増便やダイヤの改正、スクールバスの運行や寮の整備、通学費や下宿代等の補助等の対応を検討



魅力ある高等学校づくりに向けて

- 市町村やPTA関係者等と意見交換する場を設定し、具体的な学校配置等について意見を伺いながら、実施計画を策定
- 実施計画の策定過程において、県民へ説明し、意見を伺う場の設定やパブリック・コメントの実施等、様々な機会を捉え地域等の意見を聴取
- 統合を行う場合には、統合の対象となる高校の関係者等により、新たな統合校の教育活動の充実に向けた検討の実施

04

検討会議の今後の流れ

検討会議の今後の流れ

令和6年11月～

意見募集等を実施

- ◆ 地区懇談会
- ◆ 地区部会
- ◆ 県民の皆様からの意見募集
- ◆ 市町村等からの意見聴取

令和7年1月

第7回検討会議

意見募集等の結果を踏まえ、
検討結果報告に向けた審議

令和7年2月

第8回検討会議

検討会議から県教育長へ
検討結果報告

中間まとめに関する御意見を募集中です！

(12月6日(金)まで)

是非、皆様の御意見をお聞かせください！

E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp

ホームページはこちら



担当

〒030-8540 青森市長島1-1-1

青森県教育庁 高等学校教育改革推進室

地区懇談会に御出席いただき、
ありがとうございました。

青森県教育委員会